

昭和肥料ニュース

FAX版



Vol. 072

高温傾向が問題となっています。特に「夜温が高い」ため作物の登熟不足、着色不良に悩む生産者様のお声を多く聞いております。今回は作物と気温の話です。基本の見直しにお付き合いください。

温度（気温）と作物の関係

日平均気温の累計（生育限界以下の気温はカウントしない）の「積算温度」から各作物は収穫時期を予測することができます。植物の生育速度は気温の影響を受け（体内の代謝に係る酵素活性が温度の影響を受ける）生育適温範囲で高温ほど生育は早まる傾向があります。

日平均気温が同じでも、夜温が高いと夜間の生命維持に栄養分を使い、子実の肥大や、着色へ廻る栄養素が減少する、「朝昼の稼ぎを夜に浪費し貯金が出来ない状態」になります。そのため登熟不足、品質低下になるのです（生育不良が過ぎると登熟を早く切り上げ、減収へ）。

積算温度と日長の変化により、作物は収穫時期（ゴール）が決まるため、満足いく収穫物を採るには、限られた時間で無駄なく生育させなければなりません（高温傾向ではゴールが早まるのが問題です）。

朝昼にシッカリ稼ぎ、夜はシッカリ休ませる

朝昼にシッカリ光合成を行い、夜は無駄遣いしない体質・条件に作物を導けば良いわけです。

様々な資材・技術がある中、施肥分野での策は…

①微量要素の補給 → 稼ぐ体質作り

（各酵素の働きを支え、光合成能力の底上げに必須 省力栽培で不足傾向）

②吸収しやすい肥料を使う → 消化しやすく夏バテ防止

（水溶性資材、高崩壊性資材（弊社品）、葉面散布資材、アミノ酸資材 等）

③加里、苦土、石灰のバランス施用 → 転流効率の向上

（土壌診断に基づく土づくり、裏技で加里チョイ多め：先月号参照）

④ケイ酸の増肥 → イネ科作物のパワーを引き出す定番

⑤BS資材の利用 → 作物のパワーを引き出す新技術

などが、注目を集めています。

気温コントロールと合わせて、積算温度が溜まるまでの期間中に無駄なく生育させる施肥、肥培管理を心がけてみてください。

分類	作物名	観測開始 ステージ	収穫までの 積算温度目安	収穫時の 収穫物の規格等
果 菜 類	トマト	開花後	1,100～1,200℃	完熟（着色開始）
	ミニトマト	開花後	1,000～1,100℃	完熟（着色開始）
	ナス	開花後	300～400℃	果実の長さ15cm程度
	ピーマン	開花後	250～350℃	果実の長さ10cm程度
	パプリカ	開花後	1,000～1,100℃	完熟（着色開始）
	イチゴ	開花後	800～900℃	完熟（着色開始）
	キュウリ	開花後	200～300℃	果実の長さ20cm程度
	カボチャ	開花後	900～1,000℃	完熟（ヘタのコルク率50%以上）
	メロン	開花後	1,100～1,200℃	完熟
	スイカ	開花後	1,000～1,100℃	完熟
	オクラ	開花後	100～150℃	果実の長さ10cm程度
	エダマメ（緑）	開花後	600～700℃	莢が十分に膨らむ
	エダマメ （茶・黒）	開花後	700～800℃	莢が十分に膨らむ
	スイートコーン	播種後	1,700～1,800	穂先の粒が十分に詰まる
葉 菜 類	ハクサイ	苗定植後 （本葉3～5枚）	900～1,000℃	十分な結球状態
	キャベツ	苗定植後 （本葉3～5枚）	800～900℃	十分な結球状態
	ブロッコリー	苗定植後 （本葉3～5枚）	900～1,000℃	蕾部直径15cm程度
	カリフラワー	苗定植後 （本葉3～5枚）	900～1,000℃	蕾部直径15cm程度
	小松菜	播種後	400～500℃	葉の長さ20cm程度
	水菜	播種後	400～500℃	葉の長さ20cm程度
	ほうれん草	播種後	500～600℃	葉の長さ20cm程度
	玉レタス	苗定植後 （本葉3～5枚）	800～1,000℃	十分な結球状態
	リーフレタス	苗定植後 （本葉3～5枚）	700～800℃	葉の長さ20cm程度
根 菜 類	ニンジン	播種後	1,000～1,100℃	根長15cm程度
	ダイコン	播種後	900～1,000℃	根長30cm程度
	小カブ	播種後	500～1000℃	根径5～6cm程度
	玉ねぎ	苗倒伏後	500～800℃	玉径10cm程度
	根深ネギ	苗定植後 （本葉3枚）	1,200～1,400℃	茎径2cm程度
	葉ネギ	苗定植後 （本葉3枚）	600～700℃	葉長30cm程度
穀 物	水稻	苗定植後	2500～3800℃	刈り取り適期
	小麦（春播き）	播種後	1600～2000℃	刈り取り適期
	トウモロコシ	播種時	3000～3500℃	十分な糖度確保